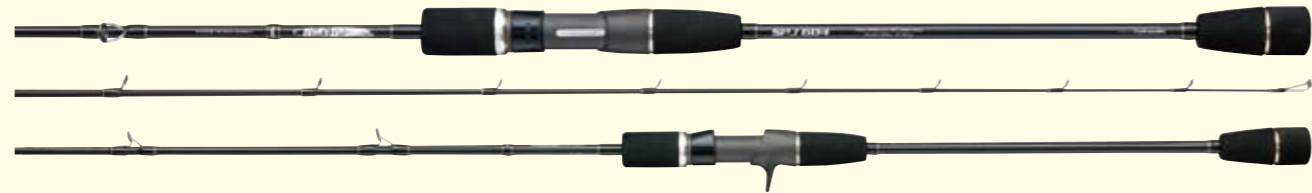


# SALTYSHAPE DASH SPJ



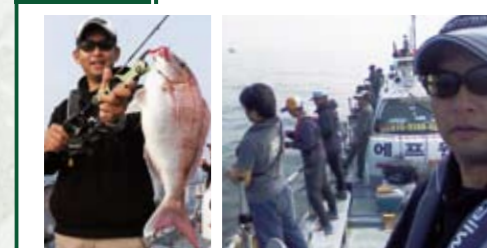
## コアアングラーが認める完成度

2万円前半というお求めやすい価格でありながら、ワンランク上のモデルを使っているような感覚や操作性が体感できる。スローピッチジャークに必要な反発力を持ちつつ、ブランクを細身で軽量化に仕上げた感度が抜群。中深海に潜むアカムツやクロムツなどの魚信が明確に伝わる。

## SPEC

モデル	全長	継数	自重	適合ルアー ウェイト	ドラグ	本体価格
633	6ft3in	1本	115g	MAX350g	MAX2kg	22,000円
634	6ft3in	1本	120g	MAX450g	MAX2.5kg	23,000円
635	6ft3in	1本	125g	MAX500g	MAX3kg	24,000円
684	6ft3in	1本	125g	MAX400g	MAX2.5kg	24,000円
685	6ft3in	1本	135g	MAX450g	MAX3kg	25,000円

## Nakachaaan!の PART.1 そこまで言うの?



左 鯛ラバをボトムまで沈めて一定の速度で巻き上げてくる日本のスタイルで竿頭になりました/右 韓国の鯛ラバ釣りの模様です。片舷に並び流します。船中3ヶタの大爆釣もあるようです

## 韓国の鯛ラバゲームで竿頭!

仕事で韓国縦断の旅に行ってきました。海では大好きな鯛ラバでマダイ釣り、川では韓国で人気ターゲットのソガリ釣り、野池ではバスフィッシングを楽しみました。

鯛ラバはスペインに次ぐ異国でのチャレンジ。今回は現地の雑誌の取材をお受けしました。ワタシたちの日程もタイトだったので、失敗の許されない状況を考慮した現地のショップが、キャッチ率を上げようと地元の鯛ラバの名手を10人近くも集めてくれたおかげで、船上はさながら日韓親善鯛ラバ選手権に(笑)。

一口に鯛ラバと言っても、ターゲットになるであろう魚はマダイ以外にクロソイ、オオニベ、ヒラメなど多岐にわたります。誘い方も全く違うことに驚きました。様々な魚種を釣りたい気持ちが先行するのは、どの国でも同じなのかもしれません。大きなインソメを付けて(当然、状況で変わるそうです)、エサとルアーのハイブリッドな釣りをしている人が多かったです。

釣りって面白いですね。世界中にいる魚に対してのアプローチ方法はどれだけあるのでしょうか? 同時にそのためのロッドや、それに関連する道具はどれだけ存在しているのでしょうか? 考えただけでも一生懸命そうです。うーむ、面白すぎます。

あっ、鯛ラバの結果ですか! “日本式”の釣りでめでたく竿頭を頂き地元の方々も驚いていました。“そのための”タックルさえ用意し、ちょっとした要点だけ押さえたら誰にでも釣れるのが鯛ラバの釣りなんですけどお。

## Nakachaaan!の PART.2 ここまで言うの?

考えてみるとソルトウォーターの大会に出ることは極端に少なく、初賞でした。記念すべき思い出のワンナイト!になったのでした。次回は狙った通りのヨミと魚でキメたいものです

## タチウオジギング大会で入賞!

11月15日、静岡県沼津市の静浦港で開催されたショップ「ペインズ」主催の「太刀cup2015」に参加しました。有名アングラーやメーカーのスタッフを始め120名以上が集合。毎年、参加者も増えているようでタチウオ人気の高さを実感しました。

秋雨の降るなか、「SALTYSHAPE DASH L-JIGGING C63ML」と「ELANDG70」のタックルで釣戦!

タックルは一つで、ルアーはメタルジグがハードプラグのみ。釣り上げたタチウオ1尾の重量で決まります。テクニクや戦略、タックル選択の他に前号で紹介した「引き運」を味方に付けなければなりません。

ジグのサイズやカラーを交換したり、誰も探っていないような所まで投げてみたり...。いろいろ試すも釣れるのは小型ばかり。快調に釣れるのですが釣っても釣ってもサイズが上がらないという展開。打開策が見付からないうちに残念な気持ちのままストップフィッシング。

ワタシが釣り上げた最大魚は430グラムチョイ。タフコンディションでも500グラムを超えなければ入賞はない!と決めこんでいた矢先、なんとワタシが3位に入賞(喜)。最後まで「負けー!」と思いながら釣りをしていただけ。

完全に状況が読めていないとも言いますが、ギリギリながらそこに滑り込むことができた「運」が一番うれしかったです。ん? 結局は「運任せ」ということですね(笑)。



最後にアドバイスを一つ。ジギングは、狙う魚のいるレンジにメタルジグを沈めて誘うことから始まる。同じジグを使っているのに特定のアングラーばかり釣れるという場面に幾度となく出会ったことがあります。このところ釣果に伸び悩んでいるのであれば、一度タックルバランスを見直して下さい。最適なバランスが、状況を打開してくれるはず。フック↓ジグ↑ライン↓ロッドと魚に近い側から順にタックルを

組み直してみよう。これによりシャクリのリズムやアクションに変化が生じるはず。硬いジグが生き物に変わる!? そんな瞬間が訪れるに違いありません。今までの状況から一変して、「ドンッ」とバイトが出る瞬間を味わえることができるはず。 「このロッドじゃないといけませんよ!」という竿屋のアドバイスも期待していた方もいるかもしれませんが、二期待に耐えられずスミマセン(笑)。

# テイルウォーク Nakachaaan!

# 舞台裏 VOICE

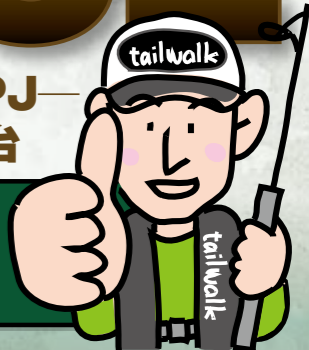


テイルウォークのアイテムはどれも明確なコンセプトがあり、それぞれに心をくすぐられるメッセージが込められている。このコーナーでは開発担当のNakachaaan!が、ブログでは紹介しきれないレアな話や開発の舞台裏を限界トークでお届け。今回語るのは、スローピッチジャーク用のジギングロッド『SALTYSHAPE DASH SPJ』だ。

## SALTYSHAPE DASH SPJ 中深海を攻める驚異の2万円台

撮影文/中村宗彦(なかむらむねひこ)

株式会社エイテックのルアーブランド「テイルウォーク」の企画開発マネージャーとして国内外を飛び回る。仕事柄あらゆるルアーフィッシングに挑戦し、大好きなバスフィッシングでは大会で数々の実績を持つ一面も。ハンドルネームは「Nakachaaan!」。



今回は秋に発売されたスローピッチジャーク専用のジギングロッド『SALTYSHAPE DASH SPJ』(以下SPJ)。このロッドは、静岡県遠州灘や浜名湖でガイドをしている「クルーズ」の岡田昌彦船長が使用しているのをカタチにしました。対象魚は中深海にいるアカムツやクロムツ、キンメダイの他、根魚、青物など。ラインナップは五つ。6フィート3インチのパワーで633、634、635の三つと、ロングフォールに対応した6フィート8インチの684と685の二つです。適合ルアーウェイトは、MAX350グラム〜MAX500グラム(詳細は左頁のスペックを参照して下さい)。

潮流の速さや使うジグの形状に

もよりますが、レンジの目安は水深300メートル程度までから水深400メートル以上までフォロ。幅広く対応します。スローピッチ用のジギングロッドは、リールのハンドルを1回転や1/2、1/4回転させて誘います。

このときティップが入り、真つすぐに戻ろうとする復元力でジグを跳ね上げてアクションをさせる。そのため従来のジギングロッドより高弾性のカーボンを採用し、張りを持たせることで反発する力が強くなっています。

2万円台でワンランク上の高感度モデルに仕上がった

SPJは感度を優先して軽量の細身のブランクに仕上げられています。



SALTYSHAPE DASH SPJのテストに協力してくれた遠州クルーズの岡田昌彦船長。イケメン&温和人柄で人気急上昇です!

化を図り、カリカリという表現がピッタリ。ステンレスフレーム&SiCリングのKガイドを採用。中深海までストレスなくジグを沈められるため、感度が落ちない範囲でガイド径を大きくしてスムーズにラインが出るようにしています。グリップデザインにもこだわりました。リールシートは、あらゆるベイトリールにマッチし、巻き上げ時に指を引っ掛けやすくホルド性の高い富士工業製「T・DPS」搭載。グリップは、疲労を軽減するために握りやすい太さにしています。

今までテイルウォークからリリースされたジギングロッドは、『BOWGUN』『SALTYSHAPE Light Jigging』『SALTYSHAPE Slow Jigging』。そして、今回のSPJ。

スローピッチジャークが進化し、誘い方が確立されていく段階において、皆さんに評価を頂いたロッドがありました。SPJはそれらをベースにした一つの結論になっています。

ソルティシエイブダッシュシリーズの2万円台という手軽さでありながら、ハイエンドモデルにひけをとらないスペックを盛り込んだおすすめの本物です。

# 中深海で感度はバツグン! スローピッチジャーク専用ロッド